

令和7年4月10日(木)

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
教育課程企画特別部会(第5回)

不登校等児童生徒への支援の充実に向けて

～県教育支援センター(SCHOOL“S”)・不登校SSR推進校における取組～

広島県教育委員会事務局 学びの変革推進部

個別最適な学び担当課長 蓮 浦 顕 達

- 1 広島県内の不登校の状況と主な対応
- 2 SCHOOL“S”の取組 ～支援内容や方法等に焦点を当てて～
- 3 SCHOOL“S”における取組の成果と課題
- 4 教育支援センターにおける「学びの質」のさらなる向上に向けて

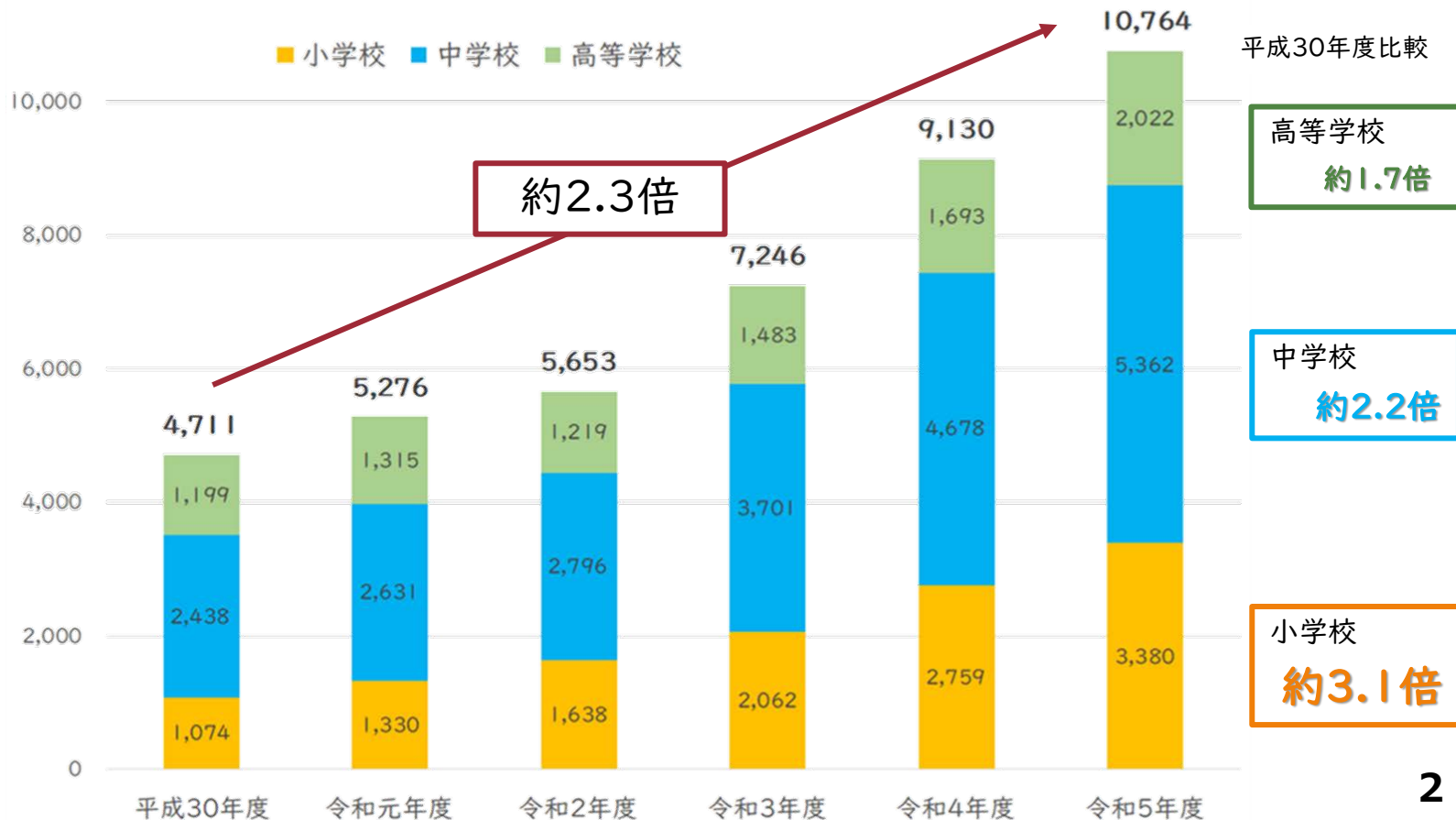


Ⅰ 広島県内の不登校の状況及び主な取組

～児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査から～

不登校児童生徒数の推移

国公立小・中・高等学校（全日制・定時制）



Ⅰ 広島県内の不登校の状況及び主な取組

欠席日数等	計 10,764人 (令和5年度)	取組内容等
欠席日数 0～29日	—	◆ 不登校SSR推進校への支援 54校 R1・2:11校 → R3:21校 → R4:33校 → R5:35校 → R6:42校
欠席日数 30～89日	5,799人	◆ 高等学校の不登校等生徒への支援 にかかると実証研究事業推進校 2校 R5:2校 → R6:2校
欠席日数 90日以上	4,965人	◆ 県教育支援センター(SCHOOL“S”)による支援 ※市町教育支援センターとの連携体制の構築 ◆ フリースクール等民間団体との連携体制の構築 情報共有会の開催など
出席日数 0～10日 (欠席90日以上のうち)	1,014人	◆ 保護者への支援 イベントの開催・広報誌等の活用による相談体制の周知

あつまれ！ 学びプログラム
オンライン学びプログラム・オンラインクラブ活動

◆ ひろしま学びプログラムの実施

学びの内容や方法等の知見を生かす

○ 支援者(教職員・支援員)の不登校等児童生徒への支援に在り方・考え方の理解を促進

2 SCHOOL “S” の取組

※ 令和4年度から環境を一新するとともにオンラインで利用できる機器を整備

経営目標

個々の児童生徒の社会的自立に向けた成長を支援する。

育成したい力

- 相談できる力
- 自分の強みを知り、生かす力

利用対象者

※ ①②ともに該当する者

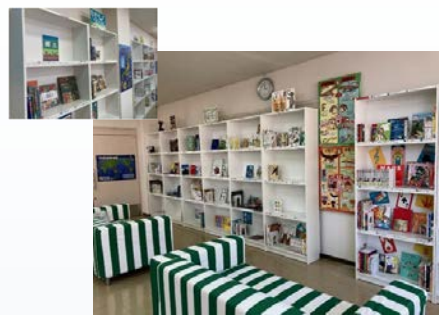
- ① 広島県内の国公私立学校の児童生徒
- ② 児童生徒本人及び保護者等とともに利用を希望している者

コンセプト

児童生徒（**S**tudents）が
自分で選んだ（**S**elect）
秘密基地（**S**ecret）のようにワクワクする
特別な（**S**pecial）場所（**S**pace）



所在地



↑ プレイルーム

広島県東広島市八本松南1丁目2-1

※ 県の中央部／県内1か所

スタジオエス（S）→



↑ 学習室

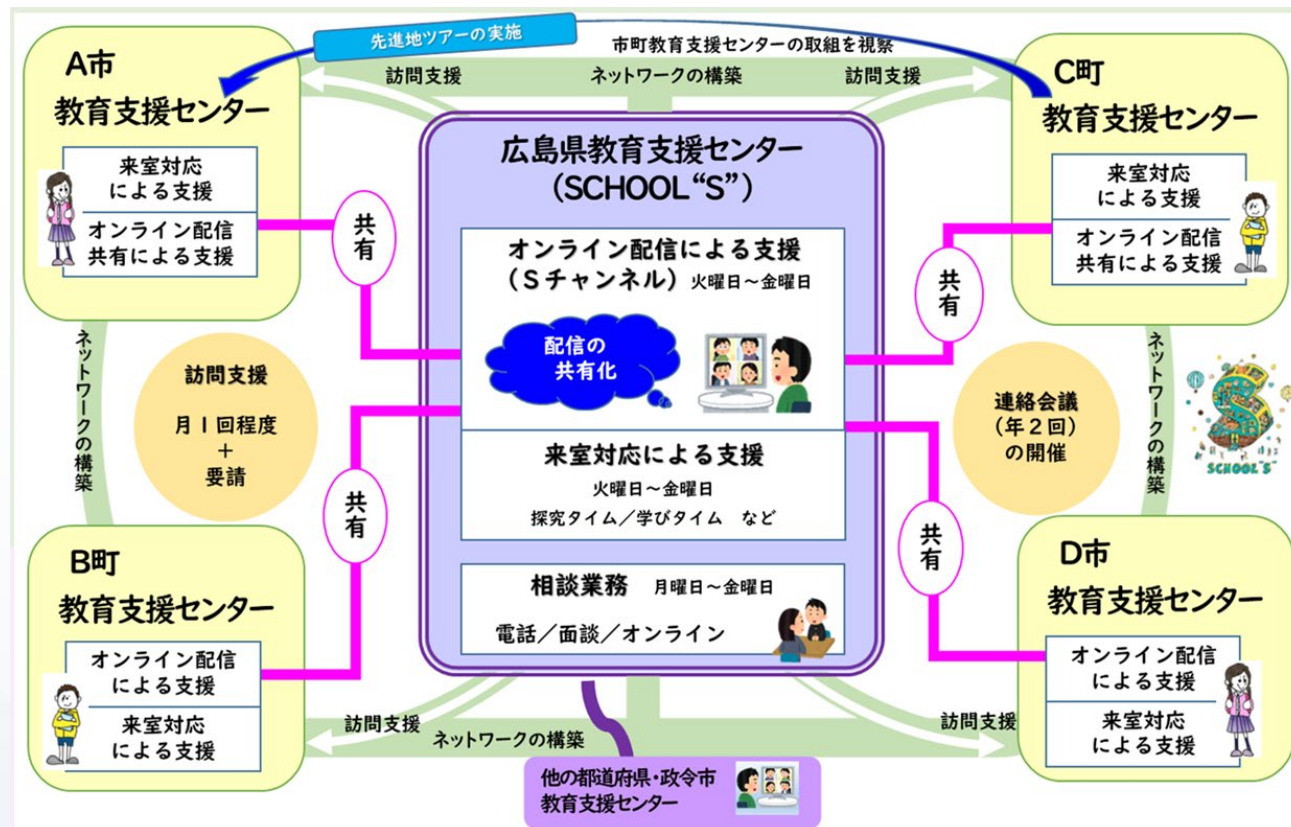


SCHOOL“S”と市町教育支援センターとの連携体制を構築し、

児童生徒の身近にある「安全・安心な居場所」「学びとつながる場所」を一層充実

施設見学・質疑応答

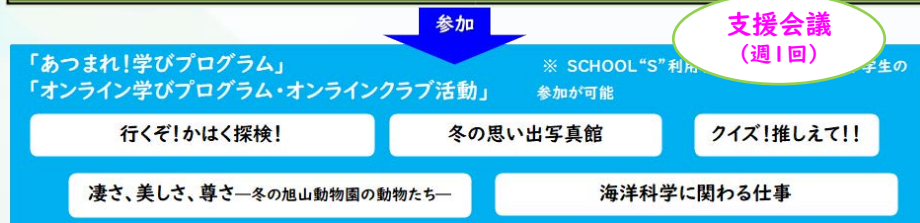
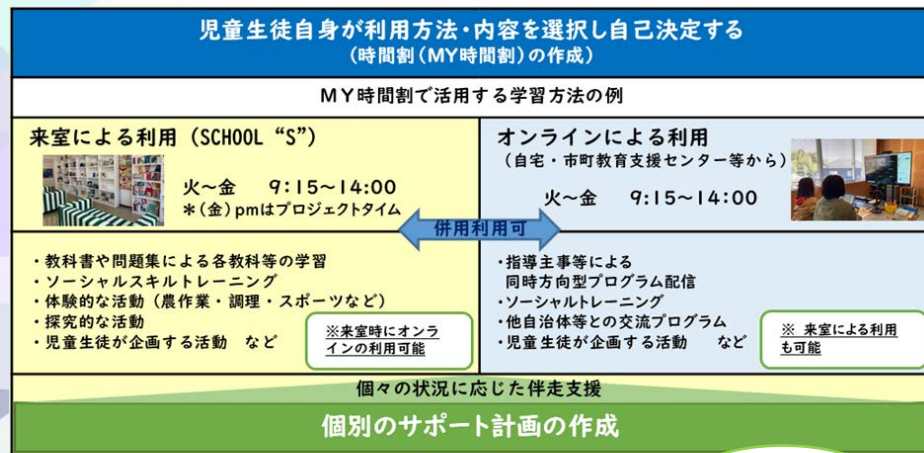
「呉市教育支援センター
(つばき中央ルーム)」から



2 SCHOOL“S”の取組

児童生徒が利用方法を選択するとともに、コンテンツの中から内容(個別学習等、SSTなど)を選択して作成した「MY時間割」に基づいて支援

※ MY時間割もスタッフと児童生徒が相談しながら作成



MY 時間割 ※ 併用利用の場合の例					
利用方法	来室	オンライン	オンライン	来室	
曜日	火	水	木	金	
	9:15	おはようタイム	おはようタイム	おはようタイム	おはようタイム
1	9:30 10:15	Cタイム	SCHOOL“S” チャンネル	manabiタイム	SST
2	10:30 11:15	個別学習等 (教科書・問題集)	SCHOOL“S” チャンネル	学プロ・クラブ	個別学習等 (読書)
	12:45	こんにちはタイム	こんにちはタイム	こんにちはタイム	こんにちはタイム
3	13:00 13:45	個別学習等 (スポーツ)	学プロ・クラブ	SCHOOL“S” チャンネル	探究タイム
	14:00	じゃーねータイム	じゃーねータイム	じゃーねータイム	じゃーねータイム

選択・自己決定	
コンテンツ名	内容
おはようタイム	出席状況の確認や健康観察及び1日の過ごし方などを確認する。
こんにちはタイム	出席状況の確認や健康観察及び午前中で活動を終了する児童生徒の振り返りを行う。
じゃーねータイム	1日の活動の簡単な振り返りや今後の予定等を確認する。
個別学習等	児童生徒自身が自分で考えた学習や活動(読書、スポーツなど)を行う。
Cタイム (communication)	1週間の予定などを確認し、【MY時間割】を作成する。
SST (social skill Training)	ソーシャルスキルトレーニング。 対人関係や集団生活を営みやすくするための技能(スキル)を養う。
manabi タイム	児童生徒の計画をもとに、個別もしくは集団で学習する。
学プロ・クラブ	県教育委員会が実施するオンライン学びプログラム・オンラインクラブ活動。興味・関心と同じくする小集団で楽しみながら学ぶ場や交流する場を提供する。
SCHOOL“S” チャンネル	リアルタイムオンライン配信プログラム(スタッフはMC等を務めます) ※ 全てのコマで配信
探究タイム	農業体験や調理、スポーツなど興味・関心に応じ、探究的な活動を行う。

3 SCHOOL“S”における取組の成果と課題



<主な成果>

- SCHOOL“S”には、各年度200名超の利用登録があるとともに、1日平均約50名（来室約30名／オンライン約20名）が利用しており、さらに、指導主事による訪問支援など、市町教育支援センターとの連携により、**社会とのつながりを断つことなく、学びとつながれる場所として、県内各地の安全・安心できる居場所として充実を図ってきた。**
- SCHOOL“S”への参加が学びへの意欲につながり、更に県内全体を対象とする別のプログラムへの参加につながった生徒がいるなど、**教育支援センターでの活動が児童生徒の学びを深め、社会へのつながりを広げている。**

<主な課題>

- ▼ 社会とつながる居場所としての利用のみで、**学ぶ意欲の向上や必要な資質・能力の向上にまでつながっていない**児童生徒もいる。
- ▼ 在籍校における**学習内容との連続性の確保**や、SCHOOL“S”における学習の**在籍校における評価が困難な状況**も見られる。
- ▼ 教育支援センターにおける学びの支援について、**教育課程の実施を含め、連続性や系統性への意識が薄く、**また、個々の児童生徒に応じた**個別のサポート計画が作成されていない場合**もあり、**指導・支援の質にばらつき**が見られる。

**課題解決を可能とする個別の柔軟な教育課程により、
教育支援センターでの「学びの質」をさらに向上**

不登校児童生徒一人一人に応じた特別の教育課程の編成を認め、一定の要件を満たした校外の教育支援センターにおいても、
当該教育課程を実施する場所として明確に位置づけることで、学習支援の体系的な実施を促進し、子供たちの学びの質の向上につなげられないか。

4 教育支援センターにおける「学びの質」のさらなる向上に向けて

尾道市教育委員会

因北小学校

支援Co(国加配①)
授業アシスタント(国予算①)

研究推進
(県加配①)

指導主事による訪問支援

<研究内容>

「不登校等児童生徒に必要となる資質・能力」を踏まえた、
教科の新設や統合等を含む特別的教育課程の編成の検討

新設教科「はっさくタイム(表現)」
「はっさくタイム(チャレンジ)」

各教科の年間指導計画を重点化

不登校の「様態」に応じたルーブリックの作成

学習評価の在り方

因北中学校

研究推進
(国加配②)

支援Co(県加配①)
授業アシスタント(国予算②)

指導主事による訪問支援

ひろしま学びプログラムの活用

- ・ あつまれ! 学びプログラム
(SCHOOL“S”プログラム)
- ・ オンライン学びプログラム
- ・ オンラインクラブ活動

因島はっさく(教育支援センター)

相談員2名(市措置)
スクールソーシャルワーカー(市措置)

指導主事による訪問支援

広域交流型オンライン学習の活用

- ・ 学校と学校、学校と社会、ひととひとをつないだオンライン学習の提供
(広島大学・東広島市との連携)

広島県教育委員会

参考資料

参考資料①

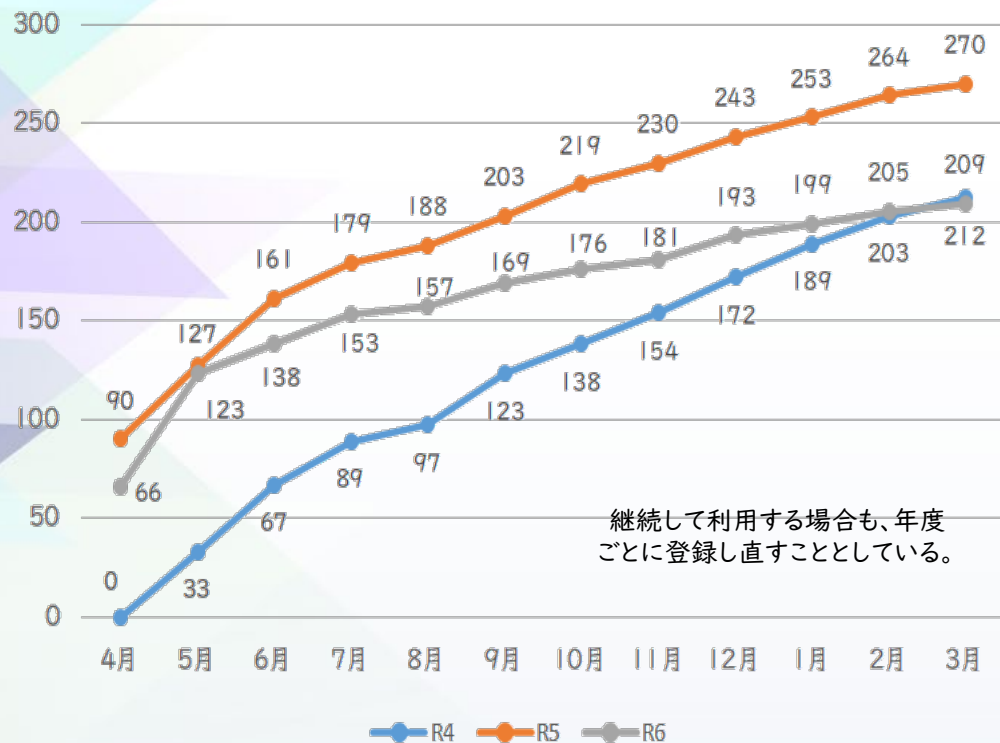
SCHOOL“S”における取組について

参考資料②

SSRにおける取組について ～市町の取組を支援～

参考資料①

SCHOOL “S” 利用登録児童生徒数の推移



SCHOOL “S” 利用実績（1日平均の利用人数）

年度	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
利用形態	来室	オンライン	来室	オンライン	来室	オンライン
4月	—	—	7.0	1.0	5.3	4.3
5月	2.4	0.9	28.7	9.5	18.9	14.1
6月	11.4	7.3	29.7	20.2	27.3	19.9
7月	17.5	12.5	24.6	15.4	17.5	15.6
8月	19.5	8.0	0.1	8.7	7.5	5.5
9月	20.5	11.9	32.8	20.2	32.6	20.0
10月	23.6	14.2	32.1	19.1	28.8	22.2
11月	27.6	16.3	32.6	20.1	30.1	22.8
12月	24.9	19.0	35.4	20.9	26.8	22.5
1月	24.9	16.9	37.0	24.7	26.1	19.0
2月	31.9	17.7	34.4	29.1	28.3	22.4
3月	31.6	18.2	32.3	23.2	22.4	17.3

◆オンラインでの利用

- ・ 2人1組で担当
- ・ 1コマずつ担当を交代

まずは、つながることを大切にしているので、いわゆるオンライン授業をしているわけではありません。チャットでのやりとりがほとんどです。



★ SCHOOL “S” のスタッフ ★

毎日、7名のスタッフで支援にあたっています。(常駐の職員(5名) + 2名)

※SCHOOL “S”とは別に、相談指導員・心理療法士が電話や面談による相談を受けつけています。

(1日2名～3名)

オンラインで利用している児童生徒から、チャットで質問があり、それに答えることもあります。

(例) さつまいも苗植え
活動している様子を
ライブ配信



◆来室での利用

- ・ 学習室やプレイルームなどでの学習活動を支援

恐竜のこについて、篠田教育長に説明しました。



SCHOOL “S” 紹介プロジェクト
～動画の編集など～



アートタイム



畑プロジェクト



土プロジェクト



探究タイム

児童生徒の興味・関心からスタートし、取り組んでいくプロジェクト活動について、令和6年度から「探究タイム」として、毎週金曜日の3コマ目に固定した。(6つの活動からどれか一つを児童生徒が選択)

プログラム	場所	内容
Sグッズ作り ～Sが楽しくなる小物作り～	プレイ ルーム	布やフェルト、モールを使って、キーホルダーやバッジなどのSグッズを作ります。その他、「こんなものを作りたい」も大歓迎です。
紙活 ～ORIGAMI～		どんな作品があったら、みんなが喜んでくれるかを考えながら、折り紙でSを飾ろう。S以外にも飾ったらいい場所やあるかもしれません。
恋愛レボリューション24 ～恋しているものを追究～	学習室	自分が好きなこと、愛してやまないことについて、とことん調べよう。好きなことならなんでもOK。テーマを決めて研究し、分かったことをみんなに紹介しよう。
JA Joyfull Agriculture ～野菜づくり。花壇、土、食～	学習室・畑	当たり前に出てくる野菜、見かける花、そこらじゅうにある土などに触れることを通して、自分たちの生活について考えてみよう。泥だらけになって体験から学ぼう。
ゆるテク ～ゆるくテクノロジーを楽しむ～	教材室	身の回りには、たくさんの科学技術(テクノロジー)があふれています。その工夫に気づいたり、真似して作ったりして、ゆる～く楽しみながら新たな「もの」を生み出してみよう。
S大改造ビフォアアフター ～アートプロジェクト～	アトリエ	Sをアート空間にしよう作戦。作ったり、描いたり、塗ったりして、Sをカラフルに飾っていきます。汚れてもいい服がおすすめです。

SCHOOL“S”における事例

◆ 中学生のエピソード ◆

オンラインでの利用



チャット上で利用者同士の
つながりも見られるように…

オンラインの空間を安心安全な居場所に

画面オフでの利用（時々、自分が大切にしているものを見せる）だけど、まずは、チャットへのつぶやきを拾いながらその生徒の思いや考えを大切に、つながりや信頼関係を築いていこう。



SCHOOL“S”に…

オンラインで紹介してくれていた大切にしているもの
を見せるために来室

家から出て、少し社会との
つながりがもてるように…

まずは、第一歩



さらに、社会とのつながりを強くもて
ないか…

以前、オンラインの中で興味がある
と言っていた「お菓子工場」の「オン
ライン中継を一緒にやってみない？」
と声をかけてみよう。

オンラインクラブ活動

中継スタッフ
として参加



次なる手立て

来室での利用

他者との関わりを
広げる



スタッフとの面談

登校への後押し



学校への登校が増える

高校へ進学が決定

SCHOOL“S”プロジェクト

SCHOOL“S”利用児童生徒のうち、参加を希望した者を対象として、SCHOOL“S”外における探究活動プログラムを実施した。

個々に応じて、どう成長を促していくのかについて、SCHOOL“S”内外での活動の中から見立てていくこと、さらに、SCHOOL“S”外の取組と、日常的なSCHOOL“S”内での取組の連動をさせながら成長をサポートしていくことをねらっている。

今年度のテーマ

時を制する者は己を制す

～キミは時を制することができるか!?～

第1回 令和7年 1月20日(月)・1月21日(火)

場所： 広島大学など



ミッション これぞ大学というものを探し出し、写真を1枚撮影せよ。
(一部) 写真の人を探し出し、好きな言葉を聞き出せ。
学食で大学生気分と料理を味わえ。 など

第2日 令和7年 3月10日(月)・3月11日(火)

場所： 憩いの森公園など



ミッション ここから展望台までの5つのコースの距離を測れ。
(一部) 春のおとずれを感じる写真を撮影せよ。
龍王山の山頂を見つけ出せ。 など

東広島市・広島大学連携

広域交流型 オンライン学習

学習の特色

01 学校と学校をつなぐ
オンラインで学校を越えて複数の教室・場所を結んで学びます



02 学校と社会をつなぐ
意見や賛否の分かれる社会の課題と向き合い、考えを伝えます



03 ひととひとをつなぐ
様々な職業や年齢、文化的背景の人々と対話します



教科	学年	日程	時間	内容(予定)
社会	中1	5/14(火)	13:40～15:30	地理的な見方・考え方は
社会	小5	5/15(水)	10:25～12:00	国土の地形と気候の特色 ～土地でできる作物を決めるのは、自然の力、人の力?～
社会	小3	6/12(水)	10:25～12:00	市の様子 ～私たちの町のどっておきの写真をとって発表しよう!～
総合 特活ほか	小3～6	6/19(水)	10:25～12:00	ことばと学級づくり ～やさしい日本語の「やさしさ」とは?～
社会	小6	7/3(水)	10:25～12:00	縄文のむらから古墳のくにへ ～大きなお墓。この価値を語り継ぐ案内板をつくろう!～
社会	中2	7/9(火)	13:40～15:30	歴史的な見方・考え方は
社会	小4	9/11(水)	10:25～12:00	風水害からくらしを守る ～私たちは防災訓練だけで命を守れるか?～
社会	中3	10/22(火)	13:40～15:30	個人の尊重と日本国憲法 ～デジタル社会の課題～
総合 特活ほか	小3～6	11/20(水)	10:25～12:00	ことばとグローバル化 ～外国語を「上手に」使いこなすってどういうこと?～
社会	小3	12/11(水)	10:25～12:00	事故や事件からくらしを守る ～新しく交番が駐在所をおくならば、どこ?～
社会	小6	1/15(水)	10:25～12:00	日本とつながりの深い国々 ～外国をよりよく知るには、どうしたらよい?～
総合 特活ほか	小3～6	1/29(水)	10:25～12:00	ことばとコミュニティ ～外国語の案内板。どの言葉をものせる?たぐさんのせる?～
社会	小4	2/12(水)	10:25～12:00	国際交流に取り組むまち ～私たちの町は外国人市民に暮らしやすいか?～
社会	小5	3/5(水)	10:25～12:00	環境を守るわたしたち ～各地の公害の歴史を交流しよう。公害は解決した?～

◎ オンライン学びプログラム オンラインクラブ活動 の配信



令和3年7月から、当時のSSR推進校を対象に配信をはじめました。

現在、SCHOOL“S”をはじめ、県内全小中学校から参加できる(事前登録制)こととしており、月に3~4回、博物館等の公共施設や民間企業、他の自治体ともコラボして配信しています。





オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム



オンライン学びプログラム

参考資料②

SSRにおける取組 ～市町の取組を支援～

県として不登校SSR推進校を指定（令和元年度から）



令和7年度

54校

(小15・中38・高1)



SSR(スペシャルサポートルーム)が
利用する児童生徒にとって、

- ◎ 安全・安心で
- ◎ 個々の状況に応じて
成長できる

居場所であることを目指します。

①推進校へ教員（不登校等児童生徒支援Co）を加配措置

- 学校全体でチームとして支援を行う体制の充実を図る。
- SSRの計画的な運営を行う。
- 学級担任及び他の主任等を兼ねない。また、原則、授業を担当しない。
- 学級担任、生徒指導主事（生徒指導担当）及び特別支援教育コーディネーター等と連携し、不登校等児童生徒の個別サポート計画を作成する。
- 個別サポート計画等を参考に、不登校等児童生徒の個別の状況を取りまとめ、不登校等児童生徒支援会議等において、情報の共有及び支援方針の協議・確認を行う。共有・協議等した内容は、校内サーバの共有フォルダ上に保存するなどし、不登校等児童生徒に係る関係教職員で情報の共有を図る。
- 特別支援教育コーディネーター等と連携し、教育相談及び特別支援教育等に関する校内研修を計画、実施し、教員の指導力向上を図り、個に応じた児童生徒への適切な支援をもって不登校の未然防止の取組を充実させる。
- 県教育委員会が主催する不登校SSR推進校連絡協議会（年2回）に参加し、研究、情報交換、実践発表及び事例検討等を行う。
- 月に1回程度、同一中学校区内の小中学校（以下「関係校」という）を巡回し、情報連携を進めるとともに推進校の取組の成果を生かして中学校区内の不登校等児童生徒への支援充実を図る。

②県教育委員会指導主事の 定期的な学校訪問による伴走支援

※ 新規校には週1回／2年目校には月1回 終日訪問



SSRにおける取組 ～市町の取組を支援～

<不登校等児童生徒支援会議(原則週1回)の開催>

- ・ SSR利用に係る検討
- ・ 状況や支援の方向性について協議



状況把握と共有のみではなく、支援の方向性をあわせるとともに、誰が、いつまでに、どう取り組むのかを明確にしましょう。

○ 適切なアセスメントの実施

児童生徒一人一人の状況だけではなく、
その状況に至っている要因を探っていきましょう。

FDPアセスメントはあくまでも手法の一つです。

判定すること自体が目的にならないように留意する必要があります。



○ 身に付けさせたい目標を設定(長期目標・短期目標)

○ 児童生徒・保護者との面談等による共通理解

FDPアセスメントの実施(例)

- ※ 利用開始時と年度末の2回実施
(場合によっては、年度途中でも実施)
- ① 各判定指標について、複数(学級担任と支援Co)で、児童生徒の実際の姿をもとに5つの指標のどこにあたるかを検討しましょう。
 - ② それぞれが、どう判定したのか、どんな姿をもとに判定したのかを交流しましょう。
 - ③ 判定した際の情報だけでは判断できない場合、再度、一定期間、児童生徒の様子を見てみましょう。
 - ④ 再度、交流することを通して判断しましょう。

SSRで育てたい力につながる長期目標、短期目標を設定することが大切です。

登校の状況にもよりますが、2週間程度で達成できる短期目標を設定してみましょう。





FDP (Five Different Positions) 判定指標の活用



NPO法人スチューデント・サポート・フェイス (S.S.F) 「多軸評価アセスメント指標」による

Level	メンタルヘルス
1	精神的に不安定であり、重度の幻覚・妄想や自殺企図があり、自傷他害のリスクが高い。
2	精神的に不安定であり、投薬等によって症状が抑えられているが自傷他害のリスクがある。
3	精神的に不安定であるものの、ある程度の自制が可能で条件次第で限定的に社会参加ができる。
4	精神的に不安定であるものの、助言等で自制が可能な状態で一般的な社会参加が可能である。
5	精神的に安定しており、社会生活を営む上での支障がない。

Level	思考 (認知)
1	全てにおいて悲観的・否定的な考え方で、客観的な意見を受け入れられず自制もできない。
2	悲観的・否定的な思考で、自制はできないが時として客観的な意見を受容することができる。
3	悲観的・否定的思考傾向にあるが、助言等を受け入れ、ある程度の自制が可能な状態にある。
4	一般的な思考傾向にあり、助言等によって物事を合理的に考え、自制が可能な状態にある。
5	一般的な思考傾向にあり、自ら物事を柔軟に捉えたり、合理的に考えることができる。

Level	対人関係
1	対人恐怖等を抱え、他者への警戒心、拒絶感が強く接触が全くできない状態にある。
2	他者への警戒心、拒絶感が強い状態であるが、特定の人間であれば接触が可能である。
3	個別での対人接触は可能であるが、強い苦手意識があり、コミュニケーションが不全である。
4	小集団での対人関係が可能で、一定の枠組みの下でのコミュニケーションは可能である。
5	集団での対人接触が可能で、日常的なコミュニケーションをとることができる。

Level	ストレス耐性
1	些細なストレスでも心身に影響が生じるため、社会生活が送れない。
2	しばしば心身への影響が認められ、社会生活を営む上での困難がある。
3	一定のストレスが溜まることで時折、社会生活に支障が出ている。
4	助言等があれば自制が可能で、一般的な社会生活が送れる。
5	自制が可能で社会生活を営む上で支障がない。

Level	環境
1	虐待やDV、不法行為等の深刻な問題が存在し、行政による緊急介入が必要な状態にある。
2	家庭内暴力や家族間の対立等の問題が存在し、家族機能が著しく低下した状態にある。
3	家族間の不和等の家族問題が存在し、家族機能が低下した状態にある。
4	家族問題が存在するものの、家族機能がある程度保たれている。
5	一般的な家庭環境で、家族機能が健全に保たれた状態にある。

FDPアセスメント記録シート

児童生徒氏名			在籍級（担任名）	年 組 番（ ）
作成担当者	（ ）（ ）		FDP実施日	1回目（ ） 2回目（ ）
本人理解	好きなこと			
	得意なこと			
	学習状況	学年相当（ ） 学年相当以上あるいは下学年の対応が必要な教科がある（ ）	具体的な教科名など	
	その他			

① 各判定指標について、複数（学級担任と支援Co）で、**児童生徒の実際の姿をもと**に5つの指標のどこにあたるかを検討しましょう。

② それぞれが、どう判定したのか、どんな姿をもとに判定したのかを**交流しましょう**。

③ 判定した際の情報だけでは判断できない場合、再度、一定期間、児童生徒の様子を見てみましょう。

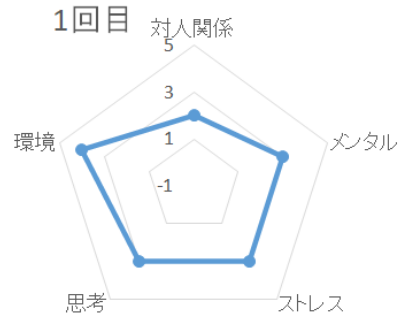
④ 再度、**交流することを通して判断しましょう**。



第1回	レベル	評価の根拠となった具体的な聴き取り・行動の内容
対人関係	2	
メンタル	3	
ストレス	3	
思考	3	
環境	4	

FDPアセスメントはあくまでも手法の一つです。

判定すること自体が目的にならないように留意する必要があります。



令和6年度 個別サポート計画

学年 組

氏名

学級担任名（作成者）

状況

児童生徒
の状況

合理的配慮

関係機関（診断名等）

その他

本人の意向

保護者の意向



児童生徒・保護者との面談等
によって、目標の共通理解を
図りましょう。

長期目標

指導の実際

開始日 短期目標（行動内容）

手立て

評価

【いつ、誰が、どこで評価するか】

SSRで育てたい力につながる
長期目標、短期目標を設定する
ことが大切です。

登校の状況にもよりますが、2
週間程度で達成できる短期目
標を設定してみましょう。



◎ 支援Coの教員が中心となって、取り入れた学習活動(例)

れんげ(先生お手伝い)サービス

教職員から仕事を募り、請け負った生徒が中心となり、仲間と協力しながら見通しをもって取り組んでいました。



れんげサービス 始めました

先生のお手伝い何でもします！

例えば...

- ・荷物運びます
- ・環境整備
- ・教員製作(授業で使う道具類など)



高校へ進学した先輩(SSR利用)から学ぶ会



自分の目標をより明確にしたり、受験や高校生活への不安を解消したりすることを目指して、高校に進学した先輩(SSR利用)の話を聞きました。



先輩の話を聞くことだけではなく、準備や事後の取組までのストーリーを描くことが大切です。

学習支援 (個別・集団)

在籍学級の時間割を基本として

- ◎ 教室へ行って
- ◎ SSRで個別に
- ◎ SSRで協働で学習するなどを

自分で選択しています。



イベント企画／実施

ただ、「やりたい」と要望を伝えるのではなく、「やるためにどうすればよいのか」を児童生徒が自分たちで考え、実践する。

- ・調理実習
- ・社会見学(遠足)
- ・ゲーム大会 など



目的を明確にするとともに、校長先生へプレゼンして許可を得て、他の先生方への説明する。また、当日までの準備や運営なども行う。



生き物クラブ



イラストクラブの講師を務めてくれた生徒の作品



◎ オンライン学びプログラム オンラインクラブ活動

の配信



南極へも
行っています。

令和3年7月から当時のSSR推進校を対象に配信をはじめました。令和4年度からは、県内全小中学校から参加できることとし、対象を拡大しました。(事前登録制)博物館等の公共施設や民間企業、他の自治体ともコラボして取り組んでいます。

不登校SSR推進校における事例

◆ 小学校低学年児童のエピソード ◆

学校へ通うことに
大きな抵抗感があり、
その不安が表情
に表れている状況



だんだんと
「学校に行くのが
楽しい」
と笑顔が見られるようになる



在籍学級の児童と
一緒に活動する姿



が見られた。



いきなり、教室で生活や学習が
できることを目指すのではなく、
まずは、SSRで

- ・ 活動内容を選択
- ・ 自分のペースで取り組む

ことからはじめよう。

まずは、第一歩



学級担任と連携して、校外学習
実施時に在籍学級の児童とともに活
動する場を設定し、

参加方法を児童と相談しながら
児童自身が決定する。

次なる手立て

自分で決めて
頑張ったことを
自覚できた

充実感



不登校SSR推進校における事例

◆ 中学生のエピソード ◆

なかなか学校に行けず、学習に気持ち
が向かない。

日常生活も不安定



「みんなが認めてくれる
のがうれしい」との思い
をもち、**前向きに参加する姿**が見られた。

まずは、第一歩

次なる手立て



生徒が好きな、イラストだったら
興味をもって取り組むかも・・・

オンラインクラブ活動 への



参加を
促してみよう。



訪問してくれた指導主事と相談

普段から描いているドットアートなら
イラストクラブで先生役ができる？

「先生役になって、私にも教えて」



新県美展 ジュニア部門
入選

イラストクラブで
講師役を務める



カラフルドットアート
生徒の作品



学習にも積極的に取
り組むようになった。



高校へ進学



私にとって、SSRは**おだやか**でいろいろなことを発見できる場所でした。

SSRに来て私は、自分一人で抱え込まず、**人に伝えることが少しずつできるようになりました。**

1、2年生の頃は学校にほとんど行っていなかったけど、3年生は**SSRがあったから、学校に来る回数が増えた。**

居場所がはっきりしたことによって、生徒自身が**学校(SSR)に行きたい**と言っています。

不登校傾向の生徒の欠席日数が減って、また、SSRでは**学年をこえたかわり**をもてています。



学校

◎ 不登校児童生徒の増加割合の抑制 (令和4年度→令和5年度)

県全体 18.0% 増加
推進校全体 **7.0%** 増加

入学時には、こんなに成長できるなんて思いませんでした。**心の底からSSRを利用して良かったと思いました。**



児童生徒

SSRを利用して、**少し気持ちが楽になった**と感じます。

SSRを利用し、コミュニケーションがとれるようになったり、意思表示ができるようになったので、**自信が付き、教室に行き授業を受けられるようになりました。**

◎ 不登校児童生徒への支援の結果、 好ましい変化が見られた児童生徒の割合の増加

R5 **56.3%** (前年度+6.0%)

R3 : 49.4% R4 : 50.3%

<参考> 推進校におけるSSR利用生徒数の推移

	R1	R2	R3	R4	R5	R6
合計人数	86	150	271	356	400	390
1校あたり	7.8	13.6	12.9	10.7	11.4	9.3

私は1年生の後期から大勢の人がいるところに行くのがしんどくなり、体調も悪くなり、学校に行けなくなりました。**SSRがなかったら、今でも学校に行けてなかったかもしれません。**

SSRのおかげで、**苦手だった計画性がついたり、物事を多面的に考えられるようになったり、成長することができました。**

よく話すとができるようになったし、思いが出せるようになった。学びプログラムで司会ができてよかった。**高校生になっても出てみたい。**